

19

たかが風邪・されど風邪

医療の
小ネタ

たかが風邪の基本方針は、休養・保温・水分補給の3つで、治療の目標は、体力・抵抗力・免疫力の向上です。対症療法に用いるのは、鎮痛解熱剤・鎮咳去痰剤・ティッシュペーパーくらいですが、たかが風邪をたかが風邪と見切ることの最大の意義は、されど風邪（killer sore throat）を見逃さないことにあります

Killer sore throatを直訳すれば“殺人咽頭痛”ですが、実際の現場では「見逃せば直ちに死に結びつく、ノドの痛みを呈する5つの代表的な疾患」の総称として使われています。まず「兵器ルール」という言葉を覚えてください。

Killer sore throatは、①扁桃周囲膿瘍、②咽後膿瘍、③急性喉頭蓋炎、④Lemierre's syndrome、⑤Ludwig's anginaの5つですが、それらの頭文字を繋げたのが「兵器ルール」です。致命的となる原因はいずれも、窒息・縦隔炎・敗血症となります。

- ⑥ ノドの周りには6つの扁桃があります（いわゆる扁桃腺と呼ばれるのは口蓋扁桃）。扁桃で増殖した細菌が周辺に広がり、膿の塊を作ったものが扁桃周囲膿瘍です。
- ⑦ 大きく口を開けた時に見えるノドの奥の粘膜と、頸椎の間に膿が溜まったものが咽後膿瘍で、両肺に挟まれた縦隔に炎症が広がりやすい。
- ⑧ モノを飲み込んだ時、それが気管に入らないように入り口をふさぐのが喉頭蓋ですが、そこに酷い炎症が起こってパンパンに腫れあがると窒息が起こります。
- ⑨ レミエーレ症候群は元祖killer sore throatで、咽頭痛後敗血症の20症例を報告したことに始まります。原因となるFusobacterium necrophorumは血管に入りやすい。
- ⑩ 舌の下から侵入した菌が、頸部にかけて大きな膿瘍を形成します。組織の構造が保たれている中で菌が増殖する蜂窩織炎とは異なります。

何だかいつもとは違うという感覚はとても大事です。「兵器ルール」を一般の方が正確に診断することは不可能でしょうから、何か変だと感じたら。まず喉の奥を見せてください。